

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1491000020
法人名	医療法人社団 東華会
事業所名	サリュールとつか
訪問調査日	平成 20年 9月 3日
評価確定日	平成 20年10月 29日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1491000020		
法人名	医療法人社団 東華会		
事業所名	サリュールとつか		
所在地	〒245-0065 神奈川県横浜市戸塚区東俣野町927-3 (電話) 045-858-5301		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒220-0074 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年9月3日	評価確定日	平成20年10月29日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 8人, 非常勤10人, 常勤換算 13.9人	

(2)建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1, 2階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	41,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 324,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,350円	

(4)利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	66歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科; 瀬谷医院 歯科; 湘南台中央デンタルクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・バス停から徒歩5分、周辺に畑、森のある閑静な住宅地にあり、外観は民家風な木造建築の施設である。 ・”明るい笑顔、元気な笑顔、優しい笑顔”での対応を基調とした理念に、職員全員の具体的行動にまで及んでいる行動指針を設け、介護を実践している。 ・特に、施設をバックアップする医療関係の充実化に力を入れており、緊急の場合、支援を受ける総合病院の確保、定期往診、24時間体制医療連携、また、常勤看護師の配置を行っている。 ・開所時からの方針で、利用者の自立度を可能な限り維持するために、利用者は食事後、各自の食器洗い、布巾による水拭き、決められた場所への食器の収納などについて、できる範囲で一人ひとりが行うようにしている。
--

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流について、自治会に加入したり、地域の納涼祭に参加したり、施設の飼い犬を通しての犬好きな人たちとの交わりなど、重点的に取り組んでいる。 ・利用者と職員で近隣を散歩途中に地域の人から介護施設などについての質問が気軽に寄せられ、専門家として相談に乗って、施設紹介などを行った具体例もあり、地域から感謝されている。 <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価への取り組み方法については前回調査の改善課題の一つであり、今回は管理者と各フロアリーダーに白紙自己評価票を配り、各フロア別に職員の意見をまとめ記入し、最終的には管理者が全ての評価票を一つにまとめる全員参加方式で作成した。
	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議のメンバーとして、当地域の自治会にお願いしたが、人選に手間取ったことや、家族代表者との日程が合わず開催が延び延びになっていた。本年9月には人選を終え、第1回会議が開催される予定である。
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本項目については前回調査後、苦情相談窓口、責任者、担当者名及び公的機関の苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記している。 ・職員には利用者、家族が気軽に色々なことを直接言ってもらえるよう、また、良く聴くように指導しており、苦情や要望については、管理者が直ちに対応するように心がけている。
	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事業所として自治会に加入し、外出可能な利用者は職員同伴で納涼祭などに参加している。また、施設で飼っている犬を利用者が可愛がっているため、近隣の犬好きの住民との交流が始まっている。 ・1,2週間に1回、利用者が先生となって習字教室を施設内で開催し、近隣の小、中学生に教えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・①”明るい笑顔”②”元気な笑顔”③”優しい笑顔”の理念に加え、ホーム長は行動方針として①笑顔で挨拶し、一日の始まりに感謝し、ともに喜びを分かち合う、②健康で過ごせるホーム作り、③優しい気持ちの触れ合い、笑顔の絶えないホーム創り、を示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者と職員は理念と行動方針を毎日朝礼時、日勤夜勤交代時に全員で唱和し、介護精神を再確認し合っている。 ・本年より当事業所の所属する法人は、全職員を対象として研修受講を必須とし、法人理念も含め、職員への徹底を図っている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・当事業所として自治会に加入し、外出可能な利用者は職員同伴で納涼祭などに参加している。また、事業所で犬を飼い始め、結果、近隣の犬好きの住民との交流が始まった。 ・1,2週間に1回、利用者が先生となって習字教室を施設内で開催し、近隣の小、中学生に教えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・前回の評価は職員に公開し、課題を共有している。 ・今回は管理者と各フロアリーダーに白紙自己評価票を配り、各フロア別に職員の意見をまとめ記入し、最終的には管理者が全ての評価票を一つにまとめる全員参加方式で作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議のメンバーとして、当地域の自治会にお願いしたが、人選に手間取ったことや、家族代表者との日程が合わず開催が延び延びになっていた。本年9月には人選を終え、第1回会議が開催される予定である。	○	・運営推進会議は施設について地域に理解していただいたり、地域の状況や要望を聴く機会なので、定期的開催の努力を期待したい。

グループホームサリュールとつか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・戸塚区の生活保護者窓口担当者やグループホーム協議会の横浜市、戸塚区担当者を通じ交流があり、さらに、戸塚区の職員介護実務研修の場所提供要請にも率先し協力を表明している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・利用者に変化が生じたときには、家族や戸塚区の担当に連絡している。 ・家族の来訪時には必ず利用者の近況を詳細に報告している。 ・月1回の請求明細書、金銭管理表送付の際も必ず利用者関連のコメントを付記して送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・事業所の苦情、相談受付窓口、公的機関の相談窓口を重要事項説明書に明記すると同時に、事業所内の掲示板に貼り出している ・職員は、訪問する家族に積極的に声を掛け、気軽に話せる雰囲気を作り、要望、不満を聴き取るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・一人の利用者に対し複数の職員が担当する方式をとっており、一人の職員の異動で生ずる利用者への影響を、可能な限り緩和するように配慮している。また、職員の退職や異動理由について、利用者に説明して理解してもらえよう努め、家族にも伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本年度より法人内で年三回、新人・中堅・主任・リーダー毎の研修会を開催し、職員の受講を義務付けている。また、法人で外部講師を招聘した介護道場も年2回開催し、全職員が受講するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市、戸塚区各グループホーム協会に加入し、情報交換を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。 ・本年11月、12月、グループホーム協会が主催する交換研修に参加することとなり、この機会を通じ、他の事業者との連携をさらに強化していく。		

グループホームサリュールとつか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居する前に本人と家族が事業所見学をしたり、他の利用者との交流の場を設け、事業所内の環境に慣れてから入居に繋ぐようにしている。 ・緊急を要するような入居希望者の場合は、他施設のショートステイ等を提案・紹介し、入居までに時間を掛けて慣れてもらうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者は調理、掃除などを職員と一緒に自発的に、または、声掛けで気軽に参加している。 ・食事後の下膳に関して、事業所開設時からの方針で、可能な利用者に、各自の食器洗い、水拭き、既定の引出しに収納まで後片付けをしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成時に利用者本人の希望をよく聞き、希望に沿った援助ができるように努めている。また、利用者本人の様子を良く観察し、全館禁煙の運営の中でも食後の一服が憩いの増進に繋がると見れば直ちに工夫対応するなど、柔軟な応用を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者一人ひとりにつき、介護内容を複数の介護課題に分類し、課題別に本人希望、長期、短期目標、対処法、評価を記入する独自の介護計画様式を利用することで、個々に合わせたケアを、関係職員全員であたるチーム対応が可能となった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は3か月毎に見直しを行う。利用者の状況が急激に変化した場合は家族、関連機関に連絡して話し合い、その都度介護計画を適切に修正している。		

グループホームサリューブルとつか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族がいない、或いは出来ない場合、受診の際の付き添い、送迎等、可能な範囲でサービスを提供している。 ・家族や地域住民からの認知症の方の養護について相談がある場合、専門家としてアドバイスをを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・2週に1度の協力医の往診と月に1度の看護師だけの来訪、さらには24時間体制の医療機関との連携、緊急時の総合病院との協定など利用者の医療受診体制はできている。 ・また、2Fのリーダーには准看護師を採用し、緊急時への対応に備えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・現在の入居者の状況では、終末期対策を当面必要としないが、法人は終末期対応を方針としているので、それに添って今後対応ができるように努力する。 ・重度化する利用者に対しては、医師、家族と相談しながら、介護計画を作って実行している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシー保護に関して、職員とは採用時に契約書として取り交わしている。 ・関連書類はファイルに整理し事務室に一括保管管理している。 ・利用者への対応では、お願いや指示の場合では、失礼のない丁寧な言葉で、日常は親しみを込めた言葉で話している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々の暮らしには基本の流れはあるが、各人のペースを大切に過ごしている。 ・各人の希望にそって、身体的、精神的状況を把握し、例えば、朝の入浴、一人での外出などに対応をしている。		

グループホームサリューブルとつか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 調理、後片付けなどできることは行ってもらっている。 一人ひとりの状況を把握し食べ易く調理を工夫している。 月に1回くらい外食したり、出前を取ったり食事を楽しむ工夫をしている。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は利用者の希望に合わせて、朝でも、夕方でもまた連日でも対応している。 入浴嫌いな利用者には、清潔の大切さを説きながら誘導している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者にてできそうなことを提示し、その反応を見ながら、自然に役割が決まるようにしている。 利用者の中には、居室で小・中学生に書道を教えたり、絵が好きで大人の塗り絵に色付けしたり、テレビで昔の唄を歌ったり、それぞれの生活を楽しんでいる。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況を判断して、名札カードを身につけて一人で外出をし、近隣の人と交わってもらっている。 職員同伴の散歩はほぼ毎日希望にそって行っている。 花見、バス旅行、温泉など利用者の希望を入れ外出に変化を持たせている。 		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 玄関は日中施錠していない。出入り時はチャイムが鳴り職員が見守っているが抑止はしていない。 居室は中から施錠、解錠できるが、外からも解錠できる。 居室、玄関共に利用者の意思で自由に出入りできるケアに徹している。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回避難訓練を実施、内1回は消防署の指導で行っている。 緊急時の連絡網は事務室に掲示している。 近隣住民にも協力の働きかけをしている。 ライフラインが止まった時の食糧補給は、ヘリコプター搬送を含め食材業者と契約している。 		

グループホームサリュールとつか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には食材業者が栄養バランスを考慮して食材を届け、医師の指導、日々の体調、好みを考慮して調理している。 ・食事・水分摂取量はチェック表でチェックしている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには食卓兼用テーブルが3台、ソファ、畳のコーナーがあり自由にくつろげる。特に2階リビングは屋根に取り付けた天窓からの採光も豊で、明るく清潔に管理されている。 ・玄関、室内、回廊とも子どもっぽい装飾は一切使わず、大人の雰囲気や季節感を取り入れた飾りにしている。 		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には全て利用者の好みの家具、調度品を持ち込んで、安心して居心地よく過ごせるようにしている。 ・居室は、本人が主体となって清潔に整理するよう支援している。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	サリュールとつか
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横浜市 戸塚区 東俣野町927-3
記入者名 (管理者)	平田 英司
記入日	平成 20年 8月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	定期的な機関紙の発行を検討している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

サリユーブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	立ち話の中で、簡単な相談を受けた事をきっかけに、施設(他の施設)入所への橋渡しが出来たケースが1件、近隣在住スタッフが相談を受けて、当ホームの入居に繋がったケースが1件。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価や今年度実施された実地指導の結果をスタッフに公開し、問題や課題を共有するようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○	地域代表者がなかなか決まらず、昨年度中の開催が出来ずに経過した。今年度9月中の開催を目指し、今後は定期的な開催を行なっていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護者の担当窓口が一つに出来た事で、更に密接な連絡体制が整った事や、今年度より、他のGHとのスタッフの交換研修を実施していく事で、質の向上を図っていける環境が整った。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、学ぶ機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度、職員による入居者への虐待行為と取れる行為が発覚した為、関係諸機関へ連絡すると共に、対象スタッフへ出勤停止及び降格、減給処分を科し、再発防止に向けて取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	契約時の説明は十分に行なえているが解約時は未経験であり、今後の課題。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		改善が必要と判断した場合には、スタッフに改善するように指示を出し、または直接命令し、早急に改善するように努めている。またスタッフが直接相談を受け、上層部に報告してくるケースも増えている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		どんな些細な件でも入居者に変化があった場合には、管理者、事務員を問わず、現場スタッフが直接家族や関係機関に連絡をとらせています。また、面会時などにも日常生活を詳しく報告出来るようにしている。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		重要事項説明書内に外部の連絡先を明記し、家族等が訴えを気軽に相談出来るように配慮している。また、ホーム内の掲示板に受付先を明示。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		定期的に会議を開催。その他個別面談の実施を行なうと共に、普段から気軽に話が出来るようにしている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		定期的な会議の中で検討している。勤務の調整は各主任と相談し、検討している。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		状況によって退職や移動の説明を行なっている。

サリユーブルとつか

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年度より、法人内で定期的に新人・中堅・主任、リーダー毎に研修会を開催。尚、他のGHと交換研修の実施を計画している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>○ 管理者がGH連絡会等で交流しているだけが現状。今年度より、他のGHと交換研修の実施を計画しており、これを機会に他の事業者との連携を強化していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>明るい職場作りを心がけ、何か問題があった場合には、後に持ち越さず、その場で解決出来るようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課を導入し、給与・賞与に反映させている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問をし、入居前に本人や家族等の疑問や不安の解消に努め、信頼関係を築いている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前訪問をし、入居前に本人や家族等の疑問や不安の解消に努め、信頼関係を築いている。</p>	

サリューブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで対応可能な範囲で対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に遊びにきてもらい、他の入居者と顔見知りになれる場を設定すると共に、ホーム内の環境に慣れてから入居に繋げたケースが1件。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	決められたスケジュールを組むのではなく、季節や天候、入居者の体調をみて、何をするかをスタッフ、入居者で決める日を多く設けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		○	家族や入居者が相談しやすい環境を作り、気軽に相談し悩みを持ち続けられない環境作りが今以上に必要。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	中立の立場をとりながら、互いが感じてる悩みを相手に伝え、相互に理解し合えるように援助している。家族には認知症の進行による影響がどのようなものなのかを今以上に判りやすく説明出来るようにして行く。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	ドライブや散歩等で馴染みの場所に出掛けたり、馴染みの人が気軽に面会に来れる雰囲気作りを行っている。今後は家族に協力してもらい、昔の写真や思い出の品を持ってきていただき、活用出来るようにして行く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に職員が気を配り、入居者同士が互いに気兼ねなく過ごせるように援助すると共に、相手を気遣える声掛けの工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		○	実際に家族のいる方の退去が過去にない為、今後はそう言ったケースが発生した場合、家族の身近な相談者となれるような信頼関係を築いていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		○	ケアプランの中で本人の希望に添った援助が出来る体制を早急に確立したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		○	ケアプランを活用し、本人の過去の生活歴を踏まえ、援助が出来る体制を早急に確立したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		○	ケアプランの中で本人の希望に添った援助が出来る体制を早急に確立したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	独自のアセスメント用紙を活用し、個々に合わせたケアが出来るようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		○	各階のケアマネのみで行なっている為、今後は全スタッフが関われる体制を作っていく。(会議等で議題に挙げてもらい、検討できるように。)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		○	伝達ミスが多く他のスタッフと情報が共有出来ていないケースが多々見られた為、申し送りの方法を再検討し伝達ミスが無いようにする必要がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム事業のみの運営の為、多機能性があるかどうかは不明だが、受診の際の付き添いや送迎等、可能な範囲でサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に行っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診と、月に1度の看護師による訪問及び24時間体制の医療連携(ドクター・ナース)を行なうと共に、後方支援病院を確保し、万が一の場合、スムーズな対応が取れるようにしている。また、常勤の看護師(準看)を2階の主任に配置し、緊急時の対応を迅速出来るようにしている。		

サリユールとつか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	法人としての指針はあるが、事業所独自の指針はない。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	法人としての指針はあるが、事業所独自の指針はない。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		各関係者らと連携をとり、スムーズな移動を心がけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を特定出来る様な記録に関しては、事務室内のロッカー内に保管。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が納得出来るまで、理解出来るまで、何度も説明・相談に乗っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められたスケジュールを組むのではなく、季節や天候、入居者の体調をみて、何をするかをスタッフ、入居者で決める日を多く設けている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容の委託も行なっている。希望があれば、外出時に衣類等の買物を行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、食事の準備から下膳までを行なっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコール以外は、数や本数の制限はあるが、規制していない。アルコール類は依存症の入居者が多い為唯一禁止している。	

サリユーブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し実施。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一週間の最低入浴回数を確保する以外は、特に制限をしていない。但し、認知症高齢者の場合、本人の意思や希望ばかりを優先出来ない事情があるので、ある程度回数をコントロールする必要がある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特定のスケジュールはない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	決められたスケジュールを組むのではなく、季節や天候、入居者の体調をみて、何をするかをスタッフ、入居者で決める日を多く設けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な入居者には外出時にお金を渡し、買物等を楽しめる様にしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人外出が可能な入居者には、制限を設けていない。また、日中は玄関は開錠してある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年次計画の中で、実施。		

サリユーブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限はない。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に制限を設けず、親しみやすいホーム作りを目指している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長の許可なく拘束は出来ない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	制限はない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		○	外出願望のある入居者に対し、注意をしているが、出て行かれた事があるが、施設対応をしない方針なので全てを防ぐ事は不可能。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共有スペースは不可能。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ケアプランで反映させている。		

サリューブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練実施。各階共に避難経路の確認を行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居の契約時に説明。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調管理については、記録等を使い、把握している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		○	現在、全職員が理解すべく勉強中。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動や水分・食事等で調整。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	実施済み。夕食後、義歯を預かり、洗浄している。		

サリューブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施済み。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、周知。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日消毒・除菌を実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に制限を設けず、親しみやすいホーム作りを目指している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あくまでも、落ち着いた空間を作る為、幼稚な飾り等は排除している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツスペースあり。		

サリユーブルとつか

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施済み。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に応じ、調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が自立や機能向上出来る様な工夫はあるが、相応のリスクが有る。安全と自立・向上は両立しない。が、職員は管理者の期待以上に安全面に関して努力をしている。その結果が年間の事故報告数に表れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自身で出来る事は自身で行なう。失敗してもかまわない。それを補助する為にスタッフがいる。と言う事がホームの方針である。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラス有り。外周を散策出来る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

サリューブルとつか

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

この一年は、特に医療連携に力を入れてきました。2週間に1回の往診ドクターとの連携を始め、薬局との連携、後方支援病院の確保、近隣病院との連携強化、看護師との医療連携強化、常勤看護師の配置、精神科クリニックとの連携など、現在考えられる医療関係の強化を図ってまいりました。その結果、緊急時には、事前に医療機関へ受け入れの可否の要請が出来、消防機関共トラブル無くスムーズな搬送が可能になりました。今後は、入居者の重度化に対応すべく、職員の研修を強化すると共に、日常の健康管理にも今以上の配慮が出来る様に体制を整えていきたいと思っております。